

組んでくださっている。透明度の高い日本海での海水浴やシーカヤッキングは、子どもたちの冒険心を刺激し、素晴らしいフレッシュの機会となった。京都西陣の絹織物に端を発する織物工房では、各人が機織り機に向き合い、素敵な作品を仕上げた。宿泊先となった農家民宿では地方の文化である神楽を教えて頂いて子どもたちは夢中。とれた野菜たっぷりの家庭料理で優しくもてなしてくれた。地域コーディネーターさんとグリーンコープの方々と連携で、充実した体験の日々だった。福島の子どものための事前のご準備と当日の運営ご協力に心より感謝したい。



▶益城町のみなさんから助け合いの心を教わりました。

「ひまわりプロジェクト」にご協力下さっている地域を訪ね、子どもたちが経験を教訓として発信し、自然に直接触れて体験を深めた夏。自然災害と人災という複合災害に見舞われた福島の子どものためにはあるが、マイナスをプラスに変換する術とチャンスは、行政と市民活動の連携の中で着実に育っている。
 (京都、熊本&島根引率・災害支援センター 吉野)

●岡山県笠岡市プログラム (八月三日～六日)

一つは、「子どもたちの明らかなる成長が見られた」ということです。最終日のステージ発表では大きな声で「自分の言葉で」自己紹介する子どもたちを見て、同じくステージ発表の際壇上上がった私は驚きと感動で自分の自己紹介で噛んでしまいました。訪れる先々で自己紹介をしてもいいのですが、間違ひなく研修旅行で一番の自己紹介ができていたのではないかと思います(私を除いて)。見知らぬ土地で、見知らぬ人の前で立派な自己紹介ができるようになったことは、「明らかなる成長」と言っても良いのではないのでしょうか。



▶島根県浜田市で、シーカヤック、機織り体験、神楽と貴重な経験を沢山させていただきました。

もう一つは「笠岡市内における地域内交流の促進」です。これが理事長の仰る地域間交流による波及効果ですね。今まで、理論的には理解していたつもりでしたが、その効果があると直接現地の方々から聞けたことが、何よりの成果だと思いき嬉しくなりました。現地の立場の異なる方々がこの事業を通じ、福島の子どもの受け入れ体制を整備する過程で何度も顔を合わせ、親睦を深めたとのことでした。



▶笠岡市「ひまわりフェスティバル」。子どもたちは堂々と発表してきました。

思い出となったことでしよう。是非、子どもたちには今回の研修旅行の経験をこれからの生活の中で活かしてほしいと思います。

最後に、次年度以降の大使派遣事業での発表内容について、一つ提案をしたいと思えます。

震災から六年以上が経過し、その間に二〇一四年には広島で大規模な土砂災害が、そして二〇一六年には熊本で大地震が発生しました。いっどこで大規模な災害が発生するかわからないほど日本が不安定であることは確かです。そこで、福島の現状を発信する上で、防災・減災について一般化するフェーズに移行し



▶笠岡市のひまわり畑を訪問。満開のひまわりに笑顔が溢れます。

てもいいのではないかと思えます。岡山県は、地理的に恵まれているため、災害対策にあまり力を入れていないと現地の方が仰っていました。

しかし、福島県も震災・原発事故以前は大規模な災害は少なく、むしろ比較的 안전한県だった、だから原発安全神話が語り継がれていたのではないのでしょうか。福島はどのように防災・減災に取り組んだのか、あるいはこういう失敗があったから同じ過ちを繰り返さないためにこうして欲しい、など。それはきっと日本のこれから担う子どもたちにとって知るべきことですし、全国の皆さんとも共有するべき大切なことなのかなと思います。

末筆となりますが、この度は貴重な機会をいただきありがとうございました。職場の皆様、笠岡の皆様にも深く感謝します。
 (笠岡引率・ベーシック懇職員 一條)

憩の仲間たちが
 ひまわり情報を毎日発信♪

最新情報はブログ記事をご覧ください！
 blog 「ひまわりプロジェクト 2017」
 URL <http://shalom-net.jp/himawari/>